

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成22年3月18日 (2010.3.18)

【公表番号】特表2002-522573(P2002-522573A)

【公表日】平成14年7月23日 (2002.7.23)

【出願番号】特願2000-563698(P2000-563698)

【国際特許分類】

C 0 8 G 59/14 (2006.01)

C 0 8 G 18/67 (2006.01)

C 0 8 G 63/52 (2006.01)

C 0 9 D 5/00 (2006.01)

C 0 9 D 5/03 (2006.01)

C 0 9 D 201/02 (2006.01)

C 0 9 D 201/06 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 59/14

C 0 8 G 18/67

C 0 8 G 63/52

C 0 9 D 5/00 Z

C 0 9 D 5/03

C 0 9 D 201/02

C 0 9 D 201/06

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年1月26日 (2010.1.26)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

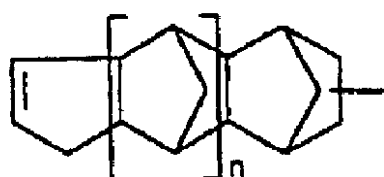
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱及び / 又は高エネルギー放射線により硬化可能な、オリゴマー又はポリマー基本構造を有する粉体塗料用結合剤であって、前記結合剤が、末端に及び / 又は側方に、少なくとも 1 個のビニルエーテル基 a) 及び少なくとも 1 個の、このビニルエーテル基 a) と異なるが、この基 a) に対して反応性を有する基 b) を含み、かつオリゴマー又はポリマー分子当たり平均で少なくとも 1 個のビニルエーテル基 a) 及び 1 個の反応性基 b) を有し、そして反応性基 b) が式 I :

【化 1】



$n = 0-10$

I

で表される構造単位であることを特徴とする結合剤。

【請求項 2】

反応性基 b) がビニルエーテル基 a) と共重合可能である請求項 1 に記載の結合剤。

【請求項 3】

オリゴマー又はポリマー基本構造は、二重結合及び / 又は三重結合を有する C - C 結合から形成され、かつ / 或はエステル、エーテル、ウレタン、アミド、イミド、イミダゾール、ケトン、スルフィド、スルホン、アセタール、尿素及びカルボネート結合から選択される結合を有する請求項 1 又は 2 に記載の結合剤。

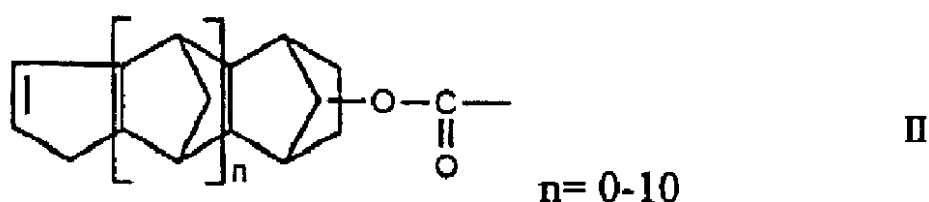
【請求項 4】

オリゴマー又はポリマー構造が、鎖状、分枝状又は環状である請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の結合剤。

【請求項 5】

反応性基 b) の式 I で表される構造単位が、(オリゴ)ジヒドロジシクロペンタジエノールと単官能性又は多官能性カルボン酸との、式 I I :

【化 2】

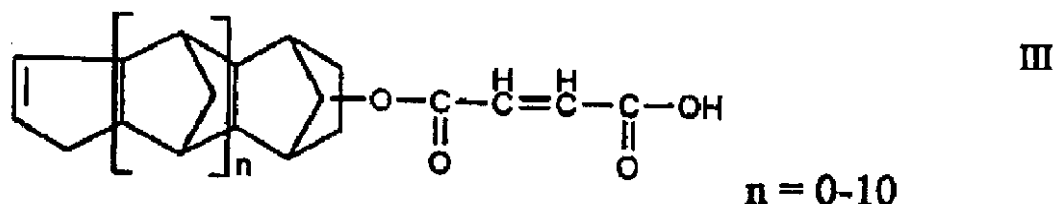


で表されるエステルの形で取り込まれている請求項 1 に記載の結合剤。

【請求項 6】

反応性基 b) の内の式 I 及び I I で表される構造単位が、マレイン酸又はフマル酸の、式 I I I :

【化 3】



で表される(オリゴ)ジヒドロジシクロペンタジエノールモノエステルの形で取り込まれ、そして前記基本構造との結合が、エステル基及び / 又はアミド基を経由して形成されている請求項 1 又は 5 に記載の結合剤。

【請求項 7】

熱及び / 又は高エネルギー放射線により硬化可能な、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の結合剤を含む粉体塗料。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の粉体塗料であって、共重合的に取り込まれた光開始剤を含むことを特徴とする塗料。

【請求項 9】

請求項 7 又は 8 に記載の粉体塗料であって、熱又は高エネルギー放射線下でフリーラジ

カル及び／又はカチオンを供給する化合物を含むことを特徴とする塗料。

【請求項 10】

請求項 7 から 9 のいずれかに記載の粉体塗料を、表面の被覆に使用する方法。

【請求項 11】

自動車の表面層としての、請求項 10 に記載の使用法。

【請求項 12】

コイルの被覆のための、請求項 10 に記載の使用法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0021

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0021】

オリゴマー又はポリマー基本構造は、二重結合及び／又は三重結合を有する C - C 結合から形成してよく、かつ／或はエステル、エーテル、ウレタン、アミド、イミド、イミダゾール、ケトン、スルフィド、スルホン、アセタール、尿素及びカルボネート結合から選択される。